

第 4 回アジア・オセアニア小児神経外科学会学術総会:

The 4th Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery (AASPN)

参加報告記

筑波大学附属病院脳神経外科

田村剛一郎

期間：2023 年 12 月 13～15 日

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜駅新高島

1. はじめに

2023 年 12 月 13 日から 15 日まで、横浜市みなとみらい地区の TKP ガーデンシティ PREMIUM 横浜駅新高島にて第 4 回アジア・オセアニア小児神経外科学会学術総会(The 4th Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery: AASPN)が開催されました。会長は白根礼造先生と師田信人先生で、テーマは Controversies in Pediatric Neurosurgery でした。小児神経外科全分野にわたり、最終的に日本を含む 23 か国から 254 名が参加したと聞いております。非常に多岐にわたる演題発表とその後の活発な Discussion が印象的でした。また夜には親睦会も開かれ、横浜港の夜景を見ながら楽しく交流することができました。

もともと AASPN は 2004 年から若手医師向けに Asian-Australasian Advanced Course in Pediatric Neurosurgery (AAACPN) という教育コースを提供していました。これは 3 年を 1 サイクルとして小児神経外科の基本的なトピックを網羅するコースです。日本では 2018 年に茨城県水戸市(茨城県立こども病院 稲垣隆介先生)で開催、2019 年時には台北で開催されています。このように教育コースに参加した若手医師や講師の先生方は顔が見える交流を綿々として行ってきた歴史がありました。しかしその後の COVID-19 pandemic により開催中止となってしまっていました。今年は本当に久しぶりに現地での AASPN 開催となり、会場では数年ぶりに旧交を温める光景が多数見られました。なお、AAACPN は次回から AASPN Educational Course と名称を変更することでした。また AASPN の理事会では、次期 Faculty member に日本から下地一彰先生、台湾から Robert, Hsin-Hung Chen 先生が選出され、会場にて承認されました。

2. 一日目

初日には Opening Ceremony のあと、Symposium 1, 2 にて Invited lectures とそれに続く活発な議論が行われました。Ventriculo-peritoneal shunt のセッションでは古くて新しい問題であるシャント感染や、抗生剤の脳室内投与について、またインドで開発されアジア地域で広く流通している Chhabra valve のレクチャーがありました。Infantile hydrocephalus のセッションでは外水頭症、ETV と CPC についての最新の話題、Slit ventricle の管理などについての講演だけでなく Expert による個人的な意見・討論も聞けた大変有意義なセッションでした。

また AASPN 10th Anniversary session 1 として Global pediatric neurosurgery がとりあげ

られ、Asian and Australian 地域における現状を各地域の先生方に発表していただきました。AASPN 10th Anniversary session 2 では COVID-19 pandemic の期間中に不幸にしてお亡くなりになった AASPN の二人の偉大なる Mentor、Dr. James T. Goodrich (アメリカ合衆国) と Dr. Michel Zerah (フランス) に黙祷が捧げられました。Dr. Goodrich はオーストラリアの Dr. Maixner が、Dr. Zerah はフランスに留学されていた宇佐美先生が個人的な思い出を語っていただきました。二人とも AAACPN には毎年のように参加してくださり、気さくに若手に声をかけてくださる先生方でした。思えば Pediatric Neurosurgery の名医は世界にあまたいると言えども、その技術と知識を伝えることができる教育者は稀有であると思います。個人的に両先生方と AAACPN 後に一緒に酒を飲んだことがいい思い出ですが、生きていくうちにもっと話を聞いておけばよかったと悔やまれてなりません。ひとの一生にはいつ何が起こるかわかりませんので、会いたいと思いつながり会えていないひとがいるならできるだけ早く会いに行くべきだと思われました。

Symposium 3 では craniosynostosis に伴う plagiocephaly と positional plagiocephaly に関する講演と活発な議論が行われました。特にヘルメット治療についてはアジア・オセアニア地域各国、および北米やヨーロッパの各国の保険制度の違いもあり多様な議論がありました。Oral presentation のセッションでは、小児脳腫瘍、内視鏡手術、遺伝子分類や診断について 30 近い発表が行われ、活発な議論がなされました。Educational Session 1 では神経内視鏡的腫瘍摘出術についての講演があり、近年の内視鏡手術の進歩について知見を新たにすることができました。

また一日目の夜には、横浜港が見えるレストラン L'Antica Pizzeria da Michele YOKOHAMA にて親睦会が開かれました。日本の先生方だけではなく、アジア・オセアニア各国、ヨーロッパやアメリカの先生方とともにお酒を飲みながら楽しく歓談・交流できました。このような顔が見える交流ができることが AASPN のような国際学会に参加する醍醐味であり、人生を豊かにする経験であると思います。

3. 二日目

Symposium 4 では Intracranial cystic lesion についての講演があり、くも膜のう胞について内視鏡手術、開頭手術、シャント術などの治療法についての対比が行われました。また日本には患者数の少ない Naso-facial encephalocele についてベトナムから報告がありました。

その後、二日目の目玉ともいえる The Japanese guidelines of pediatric brain tumors のセッションがありました。小児脳脊髄腫瘍に対する最新でかつエビデンスのあるデータをまとめた The Japanese guidelines of pediatric brain tumors がアジア・オセアニア地域各国の専門家たちに紹介され、貴重なフィードバックを得ることができました。胚細胞腫瘍における PLAP の有用性や、若年 Ependymoma に対する早期放射線治療など、各国の Expert 同士でも Consensus が得られていないトピックもあり、今後さらなるデータの蓄積が必要であると思われました。

Special lecture では脳腫瘍の診断に役立つかもしれない尿中バイオマーカーの講演、日本とアジアオーストラリアにおける葉酸摂取について、近年脳神経外科領域で話題になっている Machine learning, metaverse, AI についてなど、大変興味深い講演を聞くことができました。

た。AASPN 10th anniversary session 3 (Mami Yamasaki Memorial Session)では Woman Pediatric Neurosurgeons in Asia-Australasia と銘打って、女性小児神経外科医のキャリアについて活発な議論がなされました。Symposium 5では Chiari malformation type 1について、硬膜切開をするか、扁桃凝固を加えるか、大きな Syring 合併例に対してどのような管理や治療をするか、など controversial なトピックについて活発な議論が行われました。Symposium 6では Non-accidental head injury が取り上げられました。これは日本国内でもよく議論になる話題ですが、Nakamura type 1の急性硬膜下血種についてアジア・オセアニア、またヨーロッパ地域の先生方の貴重なご意見も聞くことができました。Educational session 2では、脊髄髄膜瘤の子宮内修復術を含め、二分脊椎についての多数の講演がありました。Educational session 3では日本で近年増えている（がまだまだ潜在的に多数の未治療患者がいると思われる）小児てんかんの外科治療についてアジア・オセアニア各国の現状と今後の展望について報告されました。

また Poster session が行われ、近い距離で各国の先生方と議論を楽しむことができました。Oral presentation 4~7では Cranio-vertebral junction, Spine, Trauma, Craniosynostosis, Hydrocephalus について60以上のすばらしい口演がありました。Meet experts (Luncheon seminar) 1では Epilepsy in Tuber Sclerosis Complex の管理・治療 (mTOR inhibitor 含む) について、Meet experts 2では小児の Intravascular surgery (AVM やガレン静脈瘤) について講演がありました。

二日目の夜には Gala dinner が Hotel New Grand にて開かれました。師田会長によるアジア・オセアニア地域の歴史に関する講演、白根会長ご推薦のロックバンドによる生演奏などを聞きながら、皆で食事を楽しみました。数年ぶりに世界の友人と旧交を温めることができた貴重な機会でした。個人的には東南アジアの先生方とそのあとも飲みに行き、大いに盛り上がりました。このような機会をまた持てれば人生が豊かになると思います。

4. 三日目

最終日は Symposium 7~10で Tethered cord syndrome, Hypertonia (Rhizotomy と ITB 治療), Neonatal IVH (DRIFT study や脳室灌流などの最新知見を含む), Moyamoya 病, Intraoperative Neuro-Monitoring などについて、講演と活発な議論が行われました。また Educational session 4で Syndromic craniosynostosis、Oral presentation 10~14では Dysraphism, Epilepsy, Arachnoid Cyst, Others について50弱もの発表があり大変にぎわいました。

Special session では小児脳腫瘍、特に Craniopharyngioma, Diffuse Midline/Intrinsic-Pontine Glioma, Low Grade Glioma の外科治療に関する Controversies について議論がなされました。DMG (DIPG) における生検術についてなど、結論の出ないテーマであり、議論がつきませんでした。

5. まとめ

今回の AASPN で扱われたテーマは小児神経外科分野のすべて分野を網羅しており、日本とは医療社会的な背景が異なる国からの貴重な議論を聞くことができ、視野を広げることが

できました。小児神経外科疾患はほぼすべてが希少疾患であり、特に脳脊髄腫瘍関係は最新の研究結果をフィードバックすることが必要であることは間違いありません。しかしシャント感染、新生児 IVH、いまだ治せない脳幹グリオーマなど昔から存在している Controversies もあります。これらの解決策のない問題に対して、未来のこどもたちの医療の進歩のために、今回の学会のように議論を続けていくことが必要だと思われました。また虐待による頭部外傷、あたまの形の問題など、単純な医学的な問題だけではなく社会的な対応が必要になってくる分野もあります。そのような Diversity に触れることができることが小児神経外科医の難しいところでありまた魅力的なところだと思います。そしてそのような問題をアジア・オセアニア地域の同僚と議論できる機会があることは大変幸せなことだと思います。

次回の第5回 AASPN はインドネシアのバリで開催される予定で、今から楽しみです。今後も AASPN に皆様が参加して下さるようどうぞお願い申し上げます。



Fig. 1



Fig. 2